

大雨、突風、降ひょうに対する農作物の技術対策

令和8年9月3日

農林水産部担い手支援課

銚子地方気象台の発表によると、千葉県では、9月4日夜のはじめ頃から5日にかけて、大気の状態が非常に不安定になる見込みです。落雷や竜巻などの激しい突風、大雨、降ひょうに注意してください。

今後の気象情報に注意し、下記を参考に事前事後の対策をお願いします。

1 園芸共通

＜事前対策＞

- (1) ハウス・トンネル等の施設は倒壊しないように基礎及び支柱を補強すると共に、網・紐などでビニールの破損防止に努める。
- (2) ビニールハウス・ガラスハウスのいずれも、ハウスの周囲に風で飛ばされるものがないように、周辺を片付ける。
- (3) 排水の悪いほ場では、あらかじめ排水溝などの整備をして、冠水や滞水を防ぐ。
- (4) ハウス周囲の側溝排水溝を整備し、雨水の流入、侵入を防ぐ。
- (5) 支柱栽培のものは、支柱の補強・結束等を行い、倒状を防止する。

＜事後対策＞

○排水対策

- (1) 施設周辺に湛水しているほ場は、速やかに排水溝を掘り、排水に努める。
- (2) ハウス内に雨水が流入した場合は、できるだけ速やかに排水し、水が引いた後に、ベッドを整形するとともに中耕する。
- (3) ハウス内への雨水の流入等により、内部が多湿になって病気が発生しやすくなるので、防除指針に従い殺菌剤を散布する。
また、根の活性が低下するなど薬害が発生しやすい状態にあるので注意する。
- (4) コカブ、コマツナなどで、損傷が激しかったり、発芽前の種子が流されたりした場合には、速やかにまき直しを行う。
- (5) 移植可能な野菜は補植苗を準備し、欠株した場合は速やかに植え付ける。

○突風・降ひょう対策

- (1) 突風や降ひょうによって施設が破損した場合は、安全を確保したうえでビニール等の損傷箇所を早急に修理する。
- (2) 施設内の温度上昇により傷口から病気の侵入のおそれがあるときには、殺菌剤の散布により病害の発生を防止する。また、液肥の葉面散布等により生育の回復に努める。
- (3) 落雷等により停電が発生する恐れがあるため、電源や設備の状態に注意する。

2 果樹

＜事前対策＞

- (1) ナシ（ブドウなどの棚仕立ての樹種もこれに準ずる。）
 - ア 主枝、亜主枝、側枝を棚へ結束する。
 - イ 主枝、亜主枝先の新梢を支柱に結束する。また、側枝先の新梢を固定する。
 - ウ 多目的防災網を設置してある園では、押え紐や控え紐（網が風で飛ばされないように、所々に網から引いてある紐）の補強を行う。
 - エ 多目的防災網の設置の有無にかかわらず、棚が上下して果実が損傷、落果するのを防ぐため、棚の所々に振れ止めを設置する。事前にブロック、肥料袋に土を入れる、等の重石を園内に準備し、棚から針金などを垂らし、重石につけて棚が振れないようにする。
 - オ 防風垣、防風網の補強をする。
 - カ 排水条件の悪い園では滞水しないようにする。
- (2) 果樹全般
 - ア 主幹には、竹や丸太などで三方から支柱を取りつける。
 - イ 主枝、亜主枝、側枝も果実が大きくなって下がってきているので、支柱を取り付ける。
 - ウ 水田等の排水の悪い園では、滞水しないように排水口を作っておく。

＜事後対策＞

- (1) ナシ
 - ア 落下した葉や果実は早めに処分する。
 - イ 枝折れが発生した場合は、その基部から切除し、保護剤等を塗布する。
- (2) イチジク
 - ア 葉の損傷の激しい園では、防除指針に従い殺菌剤を散布し、病害感染を防ぐ。
 - イ 雨水の侵入した園では、滞水しないように速やかな排水に努める。
 - ウ 傷害果等は早急に園外に持出し処分する。
- (3) キウイフルーツ
 - 葉の損傷の激しい園では、防除指針に従い殺菌剤を散布し、病害感染を防ぐ。
- (4) ブドウ
 - 葉の損傷の激しい園では、防除指針に従い殺菌剤を散布し、病害感染を防ぐ。
- (5) 果樹全般
 - ア 樹が倒伏したものは、無理のない範囲で徐々に起こし、土寄せし支柱を立てる。
 - イ 潮風害を受けた地域では、風が収まった後、速やかに真水を葉面に散布し、塩分を洗い流す。
 - ウ 園の排水を心がけ、滞水した場合は速やかに排水を図る。
 - エ 多目的防災網の防風ネットが破損した園では、直ちに修理し、次の災害に備える。
 - オ 散布する殺菌剤は「農作物病害虫雑草防除指針」の防除法を参照する。
 - カ 収穫期を控えた果樹は、特に収穫前使用基準に注意する。

3 水稻

<事前対策>

排水路の詰まりの点検・補修を行い、冠水や滞水に備える。

<事後対策>

- (1) 倒伏、冠水による穂発芽等の品質低下を防止するため、速やかに排水する。
- (2) 倒伏した稲は、穂発芽等が懸念されるため、多少早めでも収穫するよう努める。
- (3) 滞水期間の長いほ場や冠水したほ場の稲は、他ほ場の稲とは区別して収穫、乾燥し、全体の品質を下げないようにする。
- (4) 収穫を始める前に水田内に流入物がないか安全をよく確認してから実施する。
- (5) 降雨直後に刈り取った場合や倒伏した稲は籾水分が高いため、速やかに乾燥機に張り込む。また、籾水分のばらつきが大きい場合は胴割粒発生防止のため、数時間、通風のみで乾燥してから火力乾燥を行う。
- (6) 稲刈り後のほ場で稲わらが吹き寄せられ、一部分に堆積した場合は、可能な限り散らすか、ほ場外に持ち出してから耕うんする。稲わらの分解を早めるため、腐熟促進剤等を利用し、耕うんは浅めに行う。